

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201734		
法人名	医療法人 楽清会		
事業所名	グループホーム ききょうの		
所在地	青森県弘前市大字桔梗野一丁目2番地3		
自己評価作成日	令和6年10月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には薬局や学校、保育園、寺、神社があり、利便性の良い場所に位置している。新型コロナウイルスの影響前は、隣接するドラッグストア等へ頻繁に外出し、買い物を楽しんでいた。また、地域との交流を大切にしており、町会の行事には積極的に参加していた。
母体がクリニックであるため、日常的に医療との連携を取ることができ、健康面で不安がある方も、安心して生活を送ることができる環境にある。
運営理念である「個人の尊重」「持てる力を引き出す」「地域社会とのふれあいを大切に」を念頭に、職員全員が入居されている方を大切に、日々ケアにあたっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年12月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や全体勉強会の場で理念を皆で復唱することで、事業所の方向性を再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類感染症移行後は、徐々にではあるが地域との交流ができしており、昨年度より、町内会のねふた鑑賞や運動会、まとい振り等へ参加することができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居されている方の家族より面会時、認知症についての相談があった際はアドバイス等をしている。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、実習やボランティアは受け入れておらず、運営推進会議の場で、認知症の方の理解や支援の方法等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や活動報告をまとめた資料、自己評価及び外部評価の結果、目標達成計画書について委員へ説明し、意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する基準について疑問があり、電話連絡やメール、運営推進会議にて、市の担当者へ相談をしている。年度末には自己評価及び外部評価票、目標達成計画を提出し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束についての施設内研修や、平成30年4月から立ち上げた身体拘束、虐待防止委員会を年に4回実施しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアの実践同様、施設内研修を定期的実施し、それぞれのケア内容で不適切ケアがないか振り返りを行い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて年に1回、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。また、過去に関係者と必要性を話し合った後、日常生活自立支援事業や成年後見制度へ結び付ける支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は重要事項の説明をし、不安や疑問点に答えながら、納得していただくように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス内容に関する苦情に対して、入居前に重要説明事項を用いて説明している。入居されている方の家族がわかりやすいように、毎月発行している「ききょうの便り」や口頭にて、入居者の暮らしぶりを報告し、それらに対して意見等をいただき、より良い事業所運営に活かせるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や勤務体制等について、職員が自由に意見を言える馴染みの関係ができています。意見があり、より良い事業所運営に活かせる意見があった際は、代表者を交えて話し合いを行い、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員、非常勤職員に関わらず、資格を取得できる職場であり、それぞれが評価され、意欲の向上へと繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスが5類感染症移行後は、徐々にではあるが外部研修へも参加し、一人ひとりが能力に応じた役割を持ち、働くことができるように努めている。施設内での研修では、年間研修計画書を作成し、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、数年ぶりに圏域の地域包括支援センター主催のグループホーム連絡会へ参加することができた。今後も交流や連携の機会を確保し、日々のサービスの向上へ繋がるように取り組んでいきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や施設関係者からの情報を得て、本人の状態を把握した後、直接本人との面談や観察から、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは話しやすい雰囲気作りに努めており、生活する上での不安や要望を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望等に対して、必要なケアサービスを検討している。医療機関への受診援助等、できる事は柔軟に対応している。施設でできるサービスや、他の情報も伝えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作業や茶碗拭き、料理の盛り付け等、入居者一人ひとりの得意分野を発揮し、生きがいを感じて、暮らしを共にする者同士が充実した生活を送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事を写真に収めており、毎月発行の「ききょうの便り」をお送りして、近況を報告している。面会時には入居者の近況を報告すると共に、家族の状況や思いも聞き取りをして、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため、面会は制限されているが、電話があった際は、関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握して、時には職員が仲介に入り、一人ひとりが孤立せず関わり、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、いつでも来所できるように声がけをしている。また、来所した際には本人の状況を聞いたり、家族の悩みの相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で観察をして、希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な方は、家族への聞き取りや、入居者自身の表情や態度で把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を家族より聞き取りしたり、入居後の生活の中で、生活歴や馴染みの暮らし方、その方の個性等を職員全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身状態や有する力を観察し、職員間での申し送りやユニット会議での場で共有し、把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意向を伺い、カンファレンス会議を開催して、職員が気づいた事があれば意見交換をしながら、計画を作成している。変化があれば、その都度見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に行動の変化や会話のやり取り等を記録したり、日誌を通して職員間の情報を共有し、介護計画の情報として活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況から、通院や送迎、買い物代行等、既存のサービスに捉われない、できるだけ柔軟な支援やサービスに応えられるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の流行前は、地域の代表の方々に、地域の行事等に参加できるように協力を得ながら、支援していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、納得が得られたかかりつけ医との関係を築いている。検査をした際や特変時には速やかに家族に伝達し、主治医と情報交換や話し合いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体のクリニックの看護職員の他、週1回、看護職員が健康チェックに来訪し、本人や職員に聞き取りをして、相談、次回受診時のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ入居者に関する情報提供を行っている。また、家族に対して、入院時に必要な書面の説明や物品の説明をして、支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行っている。状態に応じて、主治医と相談できるように支援し、医療と連携を図りながら、本人や家族の意向を尊重できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応等、マニュアルを作成している。また、定期的に勉強会を開催しており、急変や事故発生に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め、年3回、火災想定避難訓練を実施している。その他、年1回、災害発生時に備え、食料や飲料水等を備蓄しており、電気が使用できなくてもガスでご飯を炊いてみる等、訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	知識や理解を深めるために施設内研修を開催しており、常に入居者の人格を尊重できるよう、それぞれの対応について振り返りを行う場を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいおやつや飲みたい物、着たい衣類の希望を聞く等、できるだけ日常の中で選択できる機会を設けている。また、十分に意思表示ができない方は表情や反応を読み取り、職員で情報共有をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、無理強いせず、自己決定を促し、入居者のペースに合わせて柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔な服装を心がけている。意思決定ができる入居者に対しては、自分で服を選んでもらったり、毎日化粧をされる日課のある方には見守りを行い、後片付けまで支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、一緒に食事はできていないが、職員と入居者が同じ物を食べて、味や嗜好品について聞いている。簡単な食事の盛り付けや片付けも、一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量について、入居者全員分を把握している。一人ひとりの状態に合わせて、自助具の提供、食べるタイミングや形状を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけや介助にて、口腔ケアを行っている。義歯の方は就寝前に、義歯洗浄液に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、できるだけ不快なくトイレにて排泄することで、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保し、体操や階段昇降等を日課にして、個々に応じた予防を行っている。便秘症の方については主治医に相談し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回で入浴を予定しているが、体調不良や気分が乗らない時は、時間や入浴日の変更にて対応をしている。また、異性介助を拒否される場合は、できるだけ同性介助で入浴を楽しんでいただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、疲れ具合に応じて休憩をしていただいたり、入居者のペースを優先し、柔軟な対応をしている。また、夜間眠れない方には、日中をできるだけ活動的に過ごしていただき、安眠に繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないように工夫したり、職員間で声のかけ合いをしながら、服薬介助をしている。新たな薬が処方されたり、変更があった場合は、申し送りにて職員全員が把握できるようにしている。また、薬情はいつでも確認できる場所へ保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴での楽しみをできるだけ継続できるよう、嗜好品の提供や花の水やり、畑での収穫や縫物等を行っていただき、やりがいと喜びのある生活を送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には家族の協力のもと、自宅や外出先での家族との面会ができるように支援している。また、ドライブを適宜に行っており、四季の変化を感じて楽しんでいただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、本人や家族に、お金の管理について十分な説明をしている。現在はお金を所持している方はいない。ホームで小遣いを預かり、使用した分を小遣い帳に記入して、レシートも合わせて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自ら大切な方へ電話をしたり、手紙を送れるよう、電話の操作や宛名書き、投函等、本人ができないところを援助している。また、ゆっくり会話ができるよう、電話の際は居室へ案内している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事を感じるができるよう、飾り付けや花を生ける等、居心地の良い環境へと工夫している。また、温度や湿度、匂い、職員が立てる物音や声は、入居者が快適に過ごせるように管理している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	楽しんで食事をしてもらうよう、入居者同士の関係性に配慮し、食堂での居場所作りを行っている。その他、ホール内にソファを設置して、いつでも寛げる空間を工夫したり、エントランスで外の景色を眺められるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や本人が過去に作った趣味の作品、家族の写真等を持ち込んでいただいで飾り、本人にとって過ごしやすい部屋になるよう、配慮している。また、居室の場所は、できるだけ本人や家族の希望に沿うように配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室へ間違えることなく帰れるように、扉に本人がわかるような目印や名札を貼る等、一人ひとりに合わせた工夫をしている。また、安全に移動できるような動線の確保等の配慮もしている。		